

キリスト教思想特講I				【単位数		2単位	
授業コード		15800		科目ナンバリング		410Z0-2340-o2	
				開講年度学期		2024年度第1期	
担当者氏名		岡田 紅理子					
時間割備考							
授業形態（主）		1 講義					
授業形態（副）							
担当形態		単独					
研究分野（大学院）							
本授業の概要							
キリスト教は、ナザレのイエスという人物を核とした宗教運動として、ローマ帝国支配下においてユダヤ教内部から生まれた。つまりキリスト教は、ユダヤ教やヘレニズム・ローマ社会の思想的な影響を強く受け、形成されたのである。さらに、宗教改革・大航海時代から植民地・帝国主義時代、そして世界大戦を経るなかで、キリスト教はそれぞれの時代、文化、文脈と応答しながら、さまざまな変革・刷新を経験してきた。 本科目では、いわゆる「世界宗教」となったキリスト教の経典である「聖書」を読み解くために必要な知識を身につけ、キリスト教の本質とアイデンティティを考察していく。 1期では、イエスの思想と行動原理について、当時の宗教、文化、社会状況を踏まえて検討していく。							
アクティブラーニングの実施内容							
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）			
1		聖書に記された事柄の史実性／非科学性ではなく、それが伝えようとするメッセージを考察できる。				思考・判断・表現力／主体性	
2		キリスト教の思想・概念を交えながら、イエスが示した人間観・社会観を考察できる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3		イエス運動の変遷を整理し、その特徴を具体的に説明できる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4							
5							
成績評価の基準				対応する到達目標の番号			
1		授業への取り組み態度 20%				1／2	
2		リアクションペーパー30%				1／2	
3		試験 50%				1／2／3	
4							
5							
実務経験のある教員による授業科目							
実務経験の授業への活用方法							
日本語以外の言語による授業							
授業予定一覧							
1.		イントロダクション					
2.		聖書とは					
3.		人間と神の関係					
4.		キリスト待望論					
5.		イエスが生きた時代					
6.		イエスと使徒たちの出会い					
7.		イエスが伝えた神の国①父である神					
8.		イエスが伝えた神の国②たとえ話					
9.		イエスが伝えた神の国③奇跡物語					
10.		イエスが伝えた神の国④ゆるしといやし					
11.		イエスに訪れた危機					
12.		イエスの受難、死、復活①死への覚悟					
13.		イエスの受難、死、復活②最後の晩餐とゲツセマネの祈り					
14.		イエスの受難、死、復活③復活顕現物語					
15.		まとめ					

試験等
試験
試験のフィードバックの方法
メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）関連する聖書箇所を調べ、読む（30分）。 （復習）講義で参照した聖書箇所を再読しながら講義内容を確認・整理するとともに、紹介された書籍を読む（60分）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
中型聖書 横組 N I 3 4 D C H／／日本聖書協会／3100／9784820212027／冊子版
* その他は授業時またレジュメにおいて示す。
オフィスアワー
火曜3限あるいはアポイントメント
連絡先
okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・受講数によっては開講されない場合がある。 ・manaba folioを利用するので、各自リマインダ登録しておくこと。 ・原則、継続して2期「キリスト教思想特講II」も履修することが望ましい。 ・受講数によって、ディスカッションやプレゼンテーションを課す可能性がある。 * 本科目は2022年度2期の「キリスト教学X」あるいは2023年度以降開講の「キリスト教学II」と内容が重なる。そのため、当該科目を履修済み・履修予定の学生は、本科目の履修登録を完了させるよりも前に、必ずメールにて相談すること。

キリスト教思想特講II				単位数	2単位
授業コード	15810	科目ナンバリング	410Z0-2340-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	岡田 紅理子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
キリスト教は、ナザレのイエスという人物を核とした宗教運動として、ローマ帝国支配下においてユダヤ教内部から生まれた。つまりキリスト教は、ユダヤ教やヘレニズム・ローマ社会の思想的な影響を強く受け、形成されたのである。さらに、宗教改革・大航海時代から植民地・帝国主義時代、そして世界大戦を経るなかで、キリスト教はそれぞれの時代、文化、文脈と応答しながら、さまざまな変革・刷新を経験してきた。本科目では、いわゆる「世界宗教」となったキリスト教の経典である「聖書」を読み解くために必要な知識を身につけ、キリスト教の本質とアイデンティティを考察していく。2期では、1期「キリスト教思想特講I」に続くものとして、イエス運動がキリスト教として成立し、発展してきた今日までの過程をカトリック教会を中心として概観していく。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	聖書に記された事柄の史実性／非科学性ではなく、それが伝えようとするメッセージを考察できる。			思考・判断・表現力／主体性	
2	イエス運動以降のキリスト教の歴史的また思想的な変遷を整理し、その特徴を具体的に説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	カトリック教会が省察してきた自らの使命について、出来事や思想・概念を交えながら具体的に説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み態度 20%			1／2	
2	リアクションペーパー 30%			1／2	
3	定期試験 50%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. 1期の振り返り 2. 使徒たちの復活体験 3. 原始キリスト教の成立 4. ユダヤ教との決別 5. 使徒たちの宣教 6. 「異端」との闘い 7. 「正統」信仰の形成 8. 中世のキリスト教 9. 宗教改革と対抗宗教改革 10. 世界宣教の時代 11. 近代の教会①第一バチカン公会議 12. 近代の教会②第二バチカン公会議 13. 現代の教会①「地上を旅する」神の民 14. 現代の教会②日本のカトリック教会と社会 15. まとめ					

試験等
試験
試験のフィードバックの方法
メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）関連する聖書箇所を調べ、読む（30分）。 （復習）講義で参照した聖書箇所を再読しながら講義内容を確認・整理するとともに、紹介された書籍を読む（60分）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
中型聖書 横組 N I 3 4 D C H／／日本聖書協会／3100／9784820212027／冊子版
* その他は授業時またレジュメにおいて示す。
オフィスアワー
火曜3限あるいはアポイントメント
連絡先
okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・受講者数によっては開講されない場合がある。 ・manaba folioを利用するので、各自リマインダ登録しておくこと。 ・履修に際しては、原則、1期「キリスト教思想特講I」から継続して履修しているか、2022年度2期「キリスト教学X」ないしは2023年度以降開講の「キリスト教学II」の単位を取得していることが望ましい。 ・受講者数によって、ディスカッションやプレゼンテーションを課す可能性がある。

キリスト教文化特講I				単位数	2単位
授業コード	15820	科目ナンバリング	410Z0-2340-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	岡田 紅理子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
キリスト教は世界最大の信者数を擁する宗教だといわれる。しかし、一口に「キリスト教」といっても、カトリック教会、プロテスタント教会、東方正教会に大別されるうに、形成背景、組織としてのあり方、信者が置かれてきた状況などはさまざまである。さらに、世界各地に広まっていくなかで、キリスト教は宣教地に影響を与えるだけでなく、自らもその土地の影響を受け、地域・国によって異なる発展を遂げてきた。本科目のねらいは、「東アジア」および「東南アジア」と呼ばれる地域におけるキリスト教（特にカトリック教会）の歩みと現在のありようを、それぞれの土地の社会、文化との関係から検討することにある。1期では「東アジア」に、2期では「東南アジア」に注目する。					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	講義・プレゼンテーションで取り上げられた国・地域のキリスト教の個別性を考察し、論理的かつ具体的に説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	講義・プレゼンテーションで取り上げられた国・地域のキリスト教のありようについて、関連性や共通性を考察できる。			思考・判断・表現力／主体性	
3	講義・プレゼンテーションに関連する事柄をインターネットに頼らず書籍・論文から主体的に調べ、課題に反映できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み態度 20%			1／2／3	
2	リアクションペーパーおよびプレゼンテーション 40%			1／2／3	
3	レポート 40%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. イントロダクション 2. 講義：キリスト教宣教のはじまり 3. 講義：「東アジア」とは 4. 講義：台湾①「四大族群」がつくってきた社会 5. 講義：台湾②「麗しき島」とキリスト教 6. 講義：台湾③日本植民地統治から「光復」後のキリスト教 7. プレゼンテーションの構想 8. プレゼンテーション：中国、香港、マカオ 9. プレゼンテーション：モンゴル 10. プレゼンテーション：韓国、北朝鮮 11. 講義：日本①日本キリスト教史の見取り図 12. 講義：日本②戦国大名たちと宣教師 13. 講義・ディスカッション：レポート講評 14. 講義：日本③迫害と潜伏、そして現代 15. まとめ					

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）プレゼンテーションで取り上げる国・地域における昨今の事情について新聞や雑誌で調べ、準備に取りかかる（30分）。 （復習）講義内容を整理するとともに、紹介された書籍を精読し、プレゼンテーションに活かせる観点をまとめる（30分）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> ・佐藤望ほか『アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020 * その他は授業時またレジュメにおいて示す。
オフィスアワー
火曜3限あるいはアポイントメント
連絡先
okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・manaba folioを利用するので、各自リマインダ登録しておくこと。 ・受講者の人数によっては開講されない場合がある。 ・原則、継続して2期「キリスト教文化特講II」も履修することが望ましい。 ・受講者の人数によって、授業スケジュールに変更が生じる可能性がある。 ・本科目は、高校までのような体系的知識の伝授を目指す座学中心の科目ではない。プレゼンテーション、レポート、ディスカッションに向けて主体的に調べ、考え、言語化する姿勢が求められる。 * 本科目は2022年度2期において「キリスト教文化特講II」として開講していた科目である。そのため、同科目の単位を取得した学生が本科目の履修を希望する場合は、履修登録を完了させるよりも前に、必ずメールにて相談すること。

キリスト教文化特講II				単位数	2単位
授業コード	15825	科目ナンバリング	410Z0-2340-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	岡田 紅理子				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
キリスト教は世界最大の信者数を擁する宗教だといわれる。しかし、一口に「キリスト教」といっても、カトリック教会、プロテスタント教会、東方正教会に大別されるうえに、形成背景、組織としてのあり方、信者が置かれてきた状況などはさまざまである。さらに、世界各地に広まっていくなかで、キリスト教は宣教地に影響を与えるだけではなく、自らもその土地の影響を受け、地域・国によって異なる発展を遂げてきた。 本科目のねらいは、「東アジア」および「東南アジア」と呼ばれる地域におけるキリスト教（特にカトリック教会）の歩みと現在のありようを、それぞれの土地の社会、文化との関係から検討することにある。2期では、1期の「キリスト教文化特講I」に続くものとして、「東南アジア」に注目する。					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	講義・プレゼンテーションで取り上げられた国・地域のキリスト教の個別性を考察し、論理的かつ具体的に説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	講義・プレゼンテーションで取り上げられた国・地域のキリスト教のありようについて、関連性や共通性を考察できる。			思考・判断・表現力／主体性	
3	講義・プレゼンテーションに関連する事柄をインターネットに頼らず書籍・論文から主体的に調べ、課題に反映できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み態度 20%			1／2／3	
2	リアクションペーパーおよびプレゼンテーション 40%			1／2／3	
3	レポート 40%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. イントロダクション（1期のおさらい） 2. 講義：「東アジア」とは 3. 講義：フィリピン 4. プレゼンテーションの構想 5. プレゼンテーション：ミャンマー（ビルマ） 6. プレゼンテーション：カンボジア 7. プレゼンテーション：ベトナム 8. プレゼンテーション：タイ 9. プレゼンテーション：ラオス 10. プレゼンテーション：マレーシア 11. プレゼンテーション：シンガポール、ブルネイ 12. プレゼンテーション：インドネシア、東ティモール 13. 講義：日本における外国籍者とカトリック教会 14. レポート講評 15. まとめ					

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）プレゼンテーションで取り上げる国・地域における昨今の事情について新聞や雑誌で調べ、準備に取りかかる（30分）。 （復習）講義内容を整理するとともに、紹介された書籍を精読し、プレゼンテーションに活かせる観点をまとめる（30分）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> ・大出敦ほか『アカデミックスキルズ プレゼンテーション入門：学生のためのプレゼン上達術』慶應義塾大学出版会、2020 ・佐藤望ほか『アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020 * その他は授業時またレジュメにおいて示す。
オフィスアワー
火曜3限あるいはアポイントメント
連絡先
okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・manaba folioを利用するので、各自リマインダ登録しておくこと。 ・受講者の人数によっては開講されない場合がある。 ・原則、1期「キリスト教文化特講I」から継続して履修することが望ましい。 ・受講者の人数によって、授業スケジュールに変更が生じる可能性がある。 ・本科目は、体系的知識の伝授を目指す座学ではなく、プレゼンテーション、レポート、ディスカッションによって構成される。

キリスト教文学特講IIA				単位数	2単位
授業コード	15841	科目ナンバリング	410Z0-2340-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
日本文学者のなかでキリスト教と深く関わった作家として芥川龍之介を取り上げ、作家の生涯を追いながら、キリスト教や聖書と関わる作品を取り上げ、エゴイズムと愛、神と悪魔、アガペーとエロス、父性的神と母性的神、罪と罰、愛と許し、人間存在の根源的渴望、同伴者イエス等のキリスト教的テーマに注目して作品を読み解くことを目的とする。そうした作品分析を学ぶことで、分析の方法と論文へのまとめ方の技術を習得する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	1. 各回の授業で取り上げる作品について自分の読解や意見を述べるができる。				思考・判断・表現力／主体性
2	2. 芥川龍之介の文学とキリスト教に関係したテーマで、その作品を読解、分析してレポートにまとめることができる。				知識・技能／思考・判断・表現力
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中の発言とリアクションレポート（30%）				1
2	I 期末レポート（70%）				1／2
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I 期 1 日本の近代文学者とキリスト教について概説 2 芥川龍之介の破恋体験とキリスト教 3 「老狂人」 4 「羅生門」 5 「鼻」「蜘蛛の糸」「杜子春」「白」 6 「煙草と悪魔」「るしへる」 7 「奉教人の死」 8 「きりしとほろ上人伝」 9 「南京の基督」 10 「神々の微笑」 11 「おざん」「おしの」 12 「歯車」 13 「西方の人」 14 「続西方の人」 15 芥川龍之介の魂の渴望と死と聖書・（I 期の期末レポート作成について）					

キリスト教文学特講IIB				単位数	2単位
授業コード	15842	科目ナンバリング	410Z0-2340-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
日本の現代文学者のなかでキリスト教と深く関わった作家の代表として世界的にも評価の高い、岡山とも関係の深い遠藤周作を取り上げる。作家の生涯を追いながら、人間と人間を超えたものとの関係と相克、エゴイズムと愛、アガペーとエロス、父性的神と母性的神、罪と罰、愛と許し、人間存在の根源的渴望、同伴者イエス等のキリスト教的テーマに注目し、作品を読み解くことを目的とする。そうした作品分析を学ぶことで、分析の方法と論文へのまとめ方の技術を習得する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	1. 各回の授業で取り上げる作品について自分の読解や意見を述べるができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	2. 遠藤周作の文学とキリスト教に関係したテーマで、その作品を読解、分析してレポートにまとめることができる				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・ 授業中の発言・リアクションレポート…30%				1
2	・ II 期末レポート…70%				2
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
II 期 1遠藤周作とキリスト教 2遠藤周作と母と岡山 3遠藤周作と留学・フランス 4「アデンまで」「白い人」「黄色い人」 5「海と毒薬」 6「おバカさん」「聖書のなかの女性たち」 7「わたしが・棄てた・女」 8「満潮の時刻」 9「沈黙」 10「死海のほとり」 11「侍」 12「女の一生」 13「スキャンダル」 14「深い河」 15遠藤周作の魂の故郷への帰還・（II 期の期末レポート作成について）					

キリスト教文学演習IIA				単位数	2単位
授業コード	15843	科目ナンバリング	410Z0-3400-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
近代・現代の日本文学において、芥川龍之介、太宰治、遠藤周作、三浦綾子、宮沢賢治などをはじめとしてキリスト教と関わりのある文学作品を書いた作家は実に多い。また、外国のキリスト教と関わる文学作品からも多大な影響を日本の文学者は受けている。そうした文学作品を取り上げ、そこにこめられたキリスト教的主題（神・信仰・愛・罪・赦し…）や聖書的表現などを先行研究を調査し、分析、読解する方法を学び、各自発表し、併せて論文作成の手順と技術について学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容		調査学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	演習中に取り上げる作品およびその発表について自分の読解や意見を述べるができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	キリスト教や聖書との関わりのある作品を取り上げ、キリスト教的主題や聖書的表現等に注目して分析、読解して発表することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	自分の演習の発表を基にし、論文作成の手順と技術に即して、論文を完成させることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・演習中の発表…30%			1／2	
2	演習中の主体的参加態度、リアクションペーパー…30%			1／2	
3	期末レポート………40%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 イントロダクション 2 キリスト教と関わる作家と文学作品について 3 キリスト教と関わる作品の研究発表及び先行研究の調査の方法について 4発表① 5発表② 6 発表③ 7 発表④ 8発表⑤ 9 発表⑥ 10 発表⑦ 11発表⑧ 12発表⑨ 13発表⑩ 14研究発表を踏まえた論文作成の方法について 15提出レポートについての講評					

キリスト教文学演習IIB				単位数	2単位
授業コード	15844	科目ナンバリング	410Z0-3400-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
近代・現代の日本文学において、芥川龍之介、太宰治、遠藤周作、三浦綾子、宮沢賢治などをはじめとしてキリスト教と関わりのある文学作品を書いた作家は実に多い。また、外国のキリスト教と関わる文学作品からも多大な影響を日本の文学者は受けている。そうした文学作品を取り上げ、そこにこめられたキリスト教的主題（神・信仰・愛・罪・赦し…）や聖書的表現などを分析、読解する方法を学び、各自発表し、併せて論文作成の手順と技術について学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容		調査学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	演習中に取り上げる作品およびその発表について自分の読解や意見を述べることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	キリスト教や聖書との関わりのある作品を取り上げ、キリスト教的主題や聖書的表現等に注目して分析、読解して発表することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	自分の演習の発表を基にし、論文作成の手順と技術に即して、論文を完成させることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・演習中の発表…30%			1／2	
2	演習中の主体的参加態度、リアクションペーパー…30%			1／2	
3	期末レポート………40%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 イントロダクション 2 キリスト教と関わる作家と文学作品について 3 キリスト教と関わる作品の研究発表の方法について 4発表① 5発表② 6 発表③ 7 発表④ 8発表⑤ 9 発表⑥ 10 発表⑦ 11発表⑧ 12発表⑨ 13発表⑩ 14研究発表を踏まえた論文作成及び論文要旨の作成方法について 15提出レポートについての講評					

キリスト教文学特講I				単位数	2単位
授業コード	15850	科目ナンバリング	410Z0-2340-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
日本文学者のなかでキリスト教と深く関わった作家として芥川龍之介を取り上げ、作家の生涯を追いながら、キリスト教や聖書と関わる作品を取り上げ、エゴイズムと愛、神と悪魔、アガペーとエロス、父性的神と母性的神、罪と罰、愛と許し、人間存在の根源的渴望、同伴者イエス等のキリスト教的テーマに注目して作品を読み解くことを目的とする。そうした作品分析を学ぶことで、分析の方法と論文へのまとめ方の技術を習得する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	1. 各回の授業で取り上げる作品について自分の読解や意見を述べるができる。				思考・判断・表現力／主体性
2	2. 芥川龍之介の文学とキリスト教に関係したテーマで、その作品を読解、分析してレポートにまとめることができる。				知識・技能／思考・判断・表現力
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中の発言とリアクションレポート（30%）				1
2	I 期末レポート（70%）				1／2
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I 期 1 日本の近代文学者とキリスト教について概説 2 芥川龍之介の破恋体験とキリスト教 3 「老狂人」 4 「羅生門」 5 「鼻」「蜘蛛の糸」「杜子春」「白」 6 「煙草と悪魔」「るしへる」 7 「奉教人の死」 8 「きりしとほろ上人伝」 9 「南京の基督」 10 「神々の微笑」 11 「おぎん」「おしの」 12 「歯車」 13 「西方の人」 14 「続西方の人」 15 芥川龍之介の魂の渴望と死と聖書・（I 期の期末レポート作成について）					

キリスト教文学特講II				単位数	2単位
授業コード	15855	科目ナンバリング	410Z0-2340-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
日本の現代文学者のなかでキリスト教と深く関わった作家の代表として世界的にも評価の高い、岡山とも関係の深い遠藤周作を取り上げる。作家の生涯を追いながら、人間と人間を超えたものとの関係と相克、エゴイズムと愛、アガペーとエロス、父性的神と母性的神、罪と罰、愛と許し、人間存在の根源的渴望、同伴者イエス等のキリスト教的テーマに注目し、作品を読み解くことを目的とする。そうした作品分析を学ぶことで、分析の方法と論文へのまとめ方の技術を習得する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	1. 各回の授業で取り上げる作品について自分の読解や意見を述べるができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	2. 遠藤周作の文学とキリスト教に関係したテーマで、その作品を読解、分析してレポートにまとめることができる				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・ 授業中の発言・リアクションレポート…30%				1
2	・ II 期末レポート…70%				2
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
II 期 1遠藤周作とキリスト教 2遠藤周作と母と岡山 3遠藤周作と留学・フランス 4「アデンまで」「白い人」「黄色い人」 5「海と毒薬」 6「おバカさん」「聖書のなかの女性たち」 7「わたしが・棄てた・女」 8「満潮の時刻」 9「沈黙」 10「死海のほとり」 11「侍」 12「女の一生」 13「スキャンダル」 14「深い河」 15遠藤周作の魂の故郷への帰還・（II 期の期末レポート作成について）					

キリスト教文学演習I				単位数	2単位
授業コード	15860	科目ナンバリング	410Z0-3400-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
近代・現代の日本文学において、芥川龍之介、太宰治、遠藤周作、三浦綾子、宮沢賢治などをはじめとしてキリスト教と関わりのある文学作品を書いた作家は実に多い。また、外国のキリスト教と関わる文学作品からも多大な影響を日本の文学者は受けている。そうした文学作品を取り上げ、そこにこめられたキリスト教的主題（神・信仰・愛・罪・赦し…）や聖書的表現などを先行研究を調査し、分析、読解する方法を学び、各自発表し、併せて論文作成の手順と技術について学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容		調査学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	演習中に取り上げる作品およびその発表について自分の読解や意見を述べるができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	キリスト教や聖書との関わりのある作品を取り上げ、キリスト教的主題や聖書的表現等に注目して分析、読解して発表することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	自分の演習の発表を基にし、論文作成の手順と技術に即して、論文を完成させることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・演習中の発表…30%			1／2	
2	演習中の主体的参加態度、リアクションペーパー…30%			1／2	
3	期末レポート………40%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 イントロダクション 2 キリスト教と関わる作家と文学作品について 3 キリスト教と関わる作品の研究発表及び先行研究の調査の方法について 4発表① 5発表② 6 発表③ 7 発表④ 8発表⑤ 9 発表⑥ 10 発表⑦ 11発表⑧ 12発表⑨ 13発表⑩ 14研究発表を踏まえた論文作成の方法について 15提出レポートについての講評					

試験等
期末レポート（課題は授業中に指示）
試験のフィードバックの方法
manaで必要があれば期末レポートの講評を行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・ 演習で取り上げる作品は、事前に授業中に指示するので、予習として読んでおき、他の発表者の作品に対して積極的に発言できるように予習しておくこと。（2時間程度） ・ 自分の発表を終えた後は、授業のなかで受けた指摘等をまとめておき、期末レポートに活かせるように復習をしておくこと。（1時間程度）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
読んでくるべき作品については授業中に指示する。I
オフィスアワー
オフィスアワーは、金曜日12：30-13：00 質問は随時、授業の後、また電子メールで受け付ける。
連絡先
yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・ 演習では他の発表者の作品に対して積極的に発言できるようにすること。

キリスト教文学演習II				単位数	2単位
授業コード	15870	科目ナンバリング	410Z0-3400-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
近代・現代の日本文学において、芥川龍之介、太宰治、遠藤周作、三浦綾子、宮沢賢治などをはじめとしてキリスト教と関わりのある文学作品を書いた作家は実に多い。また、外国のキリスト教と関わる文学作品からも多大な影響を日本の文学者は受けている。そうした文学作品を取り上げ、そこにこめられたキリスト教的主題（神・信仰・愛・罪・赦し…）や聖書的表現などを分析、読解する方法を学び、各自発表し、併せて論文作成の手順と技術について学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容		調査学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	演習中に取り上げる作品およびその発表について自分の読解や意見を述べることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	キリスト教や聖書との関わりのある作品を取り上げ、キリスト教的主題や聖書的表現等に注目して分析、読解して発表することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	自分の演習の発表を基にし、論文作成の手順と技術に即して、論文を完成させることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・演習中の発表…30%			1／2	
2	演習中の主体的参加態度、リアクションペーパー…30%			1／2	
3	期末レポート………40%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 イントロダクション 2 キリスト教と関わる作家と文学作品について 3 キリスト教と関わる作品の研究発表の方法について 4発表① 5発表② 6 発表③ 7 発表④ 8発表⑤ 9 発表⑥ 10 発表⑦ 11発表⑧ 12発表⑨ 13発表⑩ 14研究発表を踏まえた論文作成及び論文要旨の作成方法について 15提出レポートについての講評					

